

2023年3月19日

「主の輝き」

ルカによる福音書 9:28-36

早川 真牧師

イエスが祈っておられると、その顔が変わり、服が真っ白に輝き、そこにモーセとエリヤが現れ、イエスと共に語り合い、イエスの最期について話していたと書かれています。最期、とは、脱出という意味を持つ言葉です。

イエスはこの時、ご自身の脱出についてモーセとエリヤと共に語り合っておられました。そしてそれは、エルサレムで逃げようとしておられる脱出、つまり十字架の苦しみを受けるということでした。イエスが逃げようとしておられた脱出とは何からの脱出だったのでしょうか？イエスが脱出しようとしておられたのは、私たちの罪と死という闇夜でした。

罪と死は、私たちの闇夜であり、イエスのものではありませんでした。イエスは私たちの罪と死を担い、そこから導き出すために、天から降り、地に来られたのでした。

弟子たちが見たイエスの輝きは何だったのでしょうか。それは、例えるならば、トンネルの先にある出口の輝きだったのではないのでしょうか。私たちを取りまく暗闇に確実に訪れる出口、その眩いばかりの輝きが、主の輝きとして、弟子たちに示されたのではないのでしょうか。

私たちの真っ黒な闇夜を、貫く光、それが主イエスの輝きです。私たちの状態が一番ひどい時、もう駄目だと思ふ時、神は御言葉によって闇夜に光を貫かせてくださいます。その時、現実はまだ闇であるにもかかわらず、そこに差し込む光によって、もはや闇は闇ではなくなります。

主の輝きは、私たちを照らし、私たちを光とします。私たちの内にあるどんな闇をも、主のもとに差し出す時に、主はそれを光へと変えてくださいます。主の光に照らされて、闇から光へと変えられていくこの脱出の道を、これからも主と共に歩んでまいりたいと思います。